

# トンネル現場の安全は守られているか

紙智子参議院議員は7日、党労働者後援会とともに工事中の国道40号線音威子府バイパス事業区間の音中トンネルの工事現場（中川町）に入り、掘削中の粉じんや労働実態について調査しました。森つねと道国政相談室長も同行しました。

紙議員らはトンネル坑内で、発破、ずり出し、吹き付け、ロックボルト作業の掘削作業のワンクールの工程を調査し、労働時間や賃金なども確認しました。

工事は北海道開発局が発注し、清水建設が筆頭の共同企業体が進めているものです。調査にはトンネルじん肺訴訟の原告も参加しました。じん肺訴訟で清水建設は、「政府のガイドラインを守っているので粉じんは抑えられている」と粉じん被害で苦しむ原告らの請求を拒んでいます。

紙議員は「調査結果を分析し、労働者の安全と健康が守られるよう、今後も実態調査を進める」と話しました。

## 紙議員ら掘削工事の労働実態を調査

### 中川町～音威子府村の音中トンネル



掘削中のトンネル坑内で作業を見守る紙議員（中央こちら向き）＝7日、中川町

# 1400倍のヒ素検出—室蘭市八丁平

## 新日鉄工場跡地の土壌汚染を調査



土壌汚染地域を調査する紙議員（手前左）と森氏（その右）ら＝11日、室蘭市

紙智子参議院議員は11日、12日の両日、国の基準を大幅に超えるヒ素や鉛、水銀などの有害物質が検出された室蘭市の八丁平地域など数か所を現地調査し、室蘭、登別の両市役所で原因の徹底究明を求めました。

室蘭市の新興住宅地である八丁平の公園と隣接する市有地から、基準値の1410倍のヒ素や200倍の水銀が、昨年5月と10月に検出されました。室蘭市は、新日鉄住金室蘭製鉄所が埋め立てた産業廃棄物が汚染原因と特定し、土壌汚染対策法にもとづき、土盛り（土を50センチメートルかぶせる）工事を行おうとしています。住民との懇談では「その程度の対策で不安は解消されない」と怒りの声が上がりました。

紙議員らは現地調査のあと、室蘭市に対して「土盛りで済ますのではなく、危険なものが埋まっているなら取り除く必要がある。市として徹底的に調査すべきです」と迫りました。

紙議員らは、かつて新日鉄所有地で、基準値を超えるフッ素が検出された登別市の旧消防庁舎建設予定地と室蘭市の東中学校跡地の調査も行いました。

調査には森つねと道国政相談室長、田村農夫成室蘭市議、常磐井茂樹室蘭市議、渡辺勉登別市議、佐々木久美子登別市議、市田忠義参議院議員秘書、紙参議院議員秘書、道議団事務局長らが参加しました。

## PCB処理施設の安全対策を調査

12日午後、紙智子議員らはPCBの廃棄物処理を行っている室蘭市の日本環境安全事業北海道事業所を訪ね、処理の実態を調査しました。

施設では電気機器のトランス、コンデンサに使用されているPCBの処理を行っており、青木仁志所長が施設を案内して処理工程を説明しました。

紙議員は地震、浸水の緊急時対策や施設内でこれまで発生した事故の概要や安全対策などについて聞き取りを行いました。